

新しい国語

★言葉の力が、
もっと国語を楽しくする！



この資料は、2年度小学校教科書の内容解説資料として、
一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則っております。

内容解説資料

著作関係者

代表

秋田喜代美 東京大学大学院教授

顧問

梶田叡一 聖ウルスラ学院理事長

角野栄子 作家

小森 茂 青山学院大学名誉教授

西本鶏介 昭和女子大学名誉教授

相澤秀夫 宮城教育大学名誉教授

青山之典 福岡教育大学大学院教授

安達真理子 立教小学校教諭

伊崎一夫 奈良学園大学教授

上江洲朝男 琉球大学教職センター講師

大川孝子 玉川大学非常勤講師

大塚真弓 国立学園小学校教諭

岡田充弘 中村学園大学講師

小川孝司 岡山理科大学教授

折川 司 金沢大学教授

片山守道 お茶の水女子大学附属小学校教諭

勝見健史 兵庫教育大学大学院教授

北川雅浩 東京都葛飾区立中之台小学校指導教諭

小久保美子 新潟大学大学院教授

小林康宏 長野県佐久市立岩村田小学校教諭

今野和賀子 東北福祉大学准教授

櫻本明美 神戸親和女子大学名誉教授

佐藤明宏 香川大学教授

穴戸寛昌 立命館小学校教諭

住田 勝 大阪教育大学教授

高桑弥須子 千葉県市川市立行徳小学校学校司書

田中元康 高知大学教育学部附属小学校教諭

寺井正憲 千葉大学教授

富安慎吾 島根大学准教授

豊浦章治 別府大学短期大学部准教授

橋原義顕 宮崎大学大学院准教授

成田信子 國學院大学教授

成田雅樹 秋田大学教授

二瓶弘行 桃山学院教育大学教授

日比谷潤子 国際基督教大学学長・教授

平野啓子 語り部・かたりすと・大阪芸術大学教授

藤田伸一 神奈川県川崎市立土橋小学校教諭

堀江祐爾 神戸女子大学教授

堀之内優樹 宮城教育大学附属小学校教頭

堀畑正臣 熊本大学教授

前田修郎 東京都江戸川区立下鎌田西小学校指導教諭

間瀬茂夫 広島大学大学院教授

三藤恭弘 福山平成大学教授

三宅知宏 大阪大学大学院准教授

宮西達也 絵本作家

谷内比能雄 金沢大学大学院特任教授

弥延浩史 筑波大学附属小学校教諭

山中勇夫 栃木県宇都宮市立御幸小学校教諭

山室和也 国土館大学教授

横田経一郎 千葉県教育庁南房総教育事務所主席指導主事

横山真貴子 奈良教育大学教授

吉田茂樹 高知大学准教授

渡部洋一郎 上越教育大学大学院教授

ほか50名

特別支援教育に関する監修

海津亜希子 国立特別支援教育総合研究所主任研究員

バリアフリーに関する校閲

徳田克己 筑波大学教授

西館有沙 富山大学准教授

水野智美 筑波大学准教授

色彩デザインに関する編集協力

色覚問題研究グループばすてる

【東京書籍 2年度 小学校教科書のご案内】

教科書の編集方針や特徴などを弊社ウェブサイト

「東書Eネット」でもご紹介しています。

<https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/shou/kokugo/>



【東京書籍 2年度 デジタル教科書のご案内】

デジタル教科書をご紹介しますウェブページへは、

こちらからアクセスできます。

https://www.tokyo-shoseki.co.jp/ict/dkyokasyo_el/



東京書籍

本社 〒114-8524 東京都北区堀船2-17-1 Tel:03-5390-7464(国語編集部) Fax:03-5390-7350

支社・出張所 札幌 011-562-5721 仙台 022-297-2666 東京 03-5390-7467 金沢 076-222-7581 名古屋 052-939-2722

大阪 06-6397-1350 広島 082-568-2577 福岡 092-771-1536 鹿児島 099-213-1770 那覇 098-834-8084

ホームページ <https://www.tokyo-shoseki.co.jp> 教育情報サイト 東書Eネット <https://ten.tokyo-shoseki.co.jp>

国語を、わくわくする教科へ。

国語は、難しい。

児童や先生から、よく聞こえてくる言葉です。

私たち東京書籍は、その声に正面から向き合い、

みなさんといっしょに解決したいという想いで

「新しい国語」を編集しました。

「言葉」を意識して学ぶこと。

これを解決のヒントに、

学びのポイントを★言葉の力としました。

「何を学ぶのか」を明確にすることで

「できた!」という体験が積み重なり、

やがて楽しさへとつながります。

一人でも多くの児童が、

身につけた★言葉の力を使って

国語を好きになりますように。

その先には、すばらしい未来が待っています。



★言葉の力について

- ★言葉の力は学びの軸
- ★言葉の力が身につく3ステップ
- ★言葉の力の系統性
- ★言葉の力が積み上がる

「新しい国語」について

- 解決! 国語についての願いと悩み
- 入門期 幼児期の育ちを生かして伸ばす
- 知識・技能 学習指導要領改訂の要点を踏まえて
- 学力の向上 各種学力調査の分析結果を生かして
- 教材・題材 新しい時代を生きる児童のために
- 特別支援教育への配慮とユニバーサルデザイン
- デジタル教科書・教材、教師用指導書

14 16 20 24 26 28 30

4 6 10 12



★言葉の力が身につく3ステップ

主体的・対話的で深い学びを実現する、新しい構成を採用。各単元に設けた、**つかむ** **取り組む** **振り返る**の3ステップで、★言葉の力を確実に身につけます。

1 単元の始めから終わりまで、★言葉の力を意識して学べる仕組み

ごんぎつね (四下P30) の例

つかむ

読んで考えたことを伝え合おう

★言葉の力 ★人物どうしの関わりを考える

■覚えていくかな
★中心人物の変化を捉えよう ↓155ページ

これまで読んだ物語には、中心人物のほか、どのような人物が出てきましたか。それらの人物は、中心人物とどのような関係だったでしょうか。

●人物どうしの関わりを調べて、「ごんぎつね」を読もう。

「ごんぎつね」には、どのような人物が出てくるでしょうか。中心人物とほかの人物との関わりを調べて、「ごんぎつね」を読みましょう。

「あれと」「ついで」は、中心人物の登場と出てく物語のつながりを表しているかな。

「ごんぎつね」って、うんぬんは、人物のことを表しているかな。

村の外れの山の中に、ひとりぼっちの小さきつねがすんでいました。

ごんぎつね

単元の導入ページ

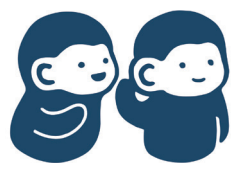
「伸びたい気持ち」を引き出す

主体的な学びへといざなう、単元の導入ページを新設。

これまでの学習を振り返り、単元で身につける★言葉の力を見通して、学習に取り組むことができます。

単元の導入ページ冒頭にある■覚えていくかなでは、単元の学習に関連の深い既習の★言葉の力を提示。学びのつながりを意識しながら学習に取り組むことができます。

教材の扉
教材文に関わる挿絵や写真、リード文で、教材文を読む意欲を高めます。



ごんぎつね

村の外れの山の中に、ひとりぼっちの小さきつねがすんでいました。

31

取り組む

●ごんと兵十の気持ちを考えよう。

▼ごんは、どこにすみ、いつものようなことをしていましたか。

・「」を読み、この物語の「時」「場所」「人物」をたしかめましょう。

▼この物語では、どのような出来事が起こりましたか。

・「ごん」と兵十の言葉や行動をノートに書き、起こった出来事を整理しましょう。

・「ごん」と兵十の、たがいに對する気持ちを想像して、ノートに書きましょう。

最後の場面では、目をつぶったままうずいたごんは、どのような気持ちだったんだろう。それを見ていた兵十は、どのような気持ちだったんだろう。

ごん
兵十

ごんが、びくいたずらしたとき
「兵十だぞ」
「ちよいど、いたずらがしたくたつたのです。」
「うわあ、ぬすごきつねめ、ど、どなりたてました。」
「うわあ、ぬすごきつねめ、ど、どなりたてました。」
「うわあ、ぬすごきつねめ、ど、どなりたてました。」
「うわあ、ぬすごきつねめ、ど、どなりたてました。」

49

言語活動 単元の「問い」

★言葉の力がしっかり身につく
てびきの冒頭には、単元の「問い」を新設。言語活動を通して「問い」を解決していくことで学びが深まり、確かな★言葉の力が身につきます。



振り返る

●振り返る

友達と感想や考えを伝え合い、どのようなことを感じたり考えたりしましたか。

★言葉の力
●人物どうしの関わりを考える
中心人物の気持ちの変化は、ほかの人物の行動や気持ちと大きく関わっていることがあります。中心人物とほかの人物との関わりを振り返りながら読むことで、物語に対する感想や考えがより深まります。中心人物とほかの人物との関係を考えるときには、次のことに気を付けて考えましょう。

- ・中心人物とほかの人物との間にどのような出来事が起こるか。
- ・中心人物の気持ちの変化するきっかけとなる出来事に、ほかの人物がどのように関わっているのか。

文を書く
「ごんぎつね」の作者が書いた、ほかの物語を読んでみましょう。

「行」の使い方
竹林 松竹梅 竹馬

「ごんぎつね」の作者が書いた、ほかの物語を読んでみましょう。

「ごんぎつね」の作者が書いた、ほかの物語を読んでみましょう。

「ごんぎつね」の作者が書いた、ほかの物語を読んでみましょう。

52

振り返りの観点

「学び続ける心」を育てる

●単元の学習を通して、できるようになったことや頑張ったことを振り返ることができるよう、振り返りの観点と★言葉の力を提示。成長の実感を味わい、次の学びへの意欲を高めます。

こんな本もいっしょに
学習と関連して読み広げたり調べたりすることに役立つ図書を紹介しています。



2 ★言葉の力を支えるさまざまな工夫

学校についてしようかいすることを考えよう(四上P114)の例

学校の「問い」

学校についてしようかいすることを考えよう

★言葉の力

「問い」

「学校についてしようかいする」という問いに対して、児童は「学校は楽しいか」「学校は勉強が苦手か」といった自分の考えを話し合っています。

司会 どうして体育館がよいと思ったのですか。

児童1 広い体育館にびっくりすると思っただけです。ぼくも、初めて体育館を見たとき、広い、ゆかもきれいでおどろきました。

児童2 本がたくさんあるから、図書館のほうがおどろくと思います。本が好きなのは、図書館のほうがわくわくするはずですよ。

児童3 ぼくは最近、うちゅうの本を読んでいるけど、すこわくわくします。わたしは遠足の様子をしようかいしたいと思います。みんなて本の実をひいて、とても楽しかったことを教えてあげたいと思います。

児童4 やっばり、体育館やプールのほうが、楽しそうだと思います。

児童5 保健室の先生が、とってもやさしいことをしようかいしてはどうですか。転んでびびるすむいたとき、やさしく手当てしてくれました。

司会 ほかにありませんか。

来年少学する子たちに、学校についてしようかいするための話し合いをしましょう。

- 言語活動
- 1 学習の見通し
 - 2 グループで話し合う。

「言葉の力」の「問い」

★役割を考えながら話し合う

●質問する人や、質問に答える人は、どんなことに気をつけて、質問したり答えたりするのでしょうか。

「問い」

「学校についてしようかいする」という問いに対して、児童は「学校は楽しいか」「学校は勉強が苦手か」といった自分の考えを話し合っています。

司会 どうして体育館がよいと思ったのですか。

児童1 広い体育館にびっくりすると思っただけです。ぼくも、初めて体育館を見たとき、広い、ゆかもきれいでおどろきました。

児童2 本がたくさんあるから、図書館のほうがおどろくと思います。本が好きなのは、図書館のほうがわくわくするはずですよ。

児童3 ぼくは最近、うちゅうの本を読んでいるけど、すこわくわくします。わたしは遠足の様子をしようかいしたいと思います。みんなて本の実をひいて、とても楽しかったことを教えてあげたいと思います。

児童4 やっばり、体育館やプールのほうが、楽しそうだと思います。

児童5 保健室の先生が、とってもやさしいことをしようかいしてはどうですか。転んでびびるすむいたとき、やさしく手当てしてくれました。

司会 ほかにありませんか。

「問い」

「学校についてしようかいする」という問いに対して、児童は「学校は楽しいか」「学校は勉強が苦手か」といった自分の考えを話し合っています。

司会 どうして体育館がよいと思ったのですか。

児童1 広い体育館にびっくりすると思っただけです。ぼくも、初めて体育館を見たとき、広い、ゆかもきれいでおどろきました。

児童2 本がたくさんあるから、図書館のほうがおどろくと思います。本が好きなのは、図書館のほうがわくわくするはずですよ。

児童3 ぼくは最近、うちゅうの本を読んでいるけど、すこわくわくします。わたしは遠足の様子をしようかいしたいと思います。みんなて本の実をひいて、とても楽しかったことを教えてあげたいと思います。

児童4 やっばり、体育館やプールのほうが、楽しそうだと思います。

児童5 保健室の先生が、とってもやさしいことをしようかいしてはどうですか。転んでびびるすむいたとき、やさしく手当てしてくれました。

司会 ほかにありませんか。

つかむ

「伸びたい気持ち」を引き出す

- 学習のモデルとなるような文例や話例に加えて、うまく進んでいない話し合いの例など、**児童の問題意識を引き出すような例も示す**ことで、**★言葉の力を使って「頑張りたい」「できるようにになりたい」という思いを引き出します。**



取り組む

★言葉の力がしっかり身につく

- 主体的に学習を進めることができるように、単元の「問い」を解決するための言語活動とともに、**■学習の見通しを示しました。**

- 学習過程の中で特に重点となる部分には、**★言葉の力の「問い」を新設。言葉による見方・考え方を働かせて思考・判断・表現することを促し、学びの深まりを生み出します。**

- 学習活動の各所で、児童が考えを伝え合う場面を丁寧に描写。**それぞれの考えを広げ深める、対話的な学びの大切さを伝えていきます。**



- 単元の中で特に押さえておきたい知識・技能を取り上げる**✓おさえる**を新設。思考・判断・表現する中で**生きて働く知識・技能が身につきます。**

★おさえる

くらべてまとめる

ことなるものどうしの、同じところやちがうところを説明するときには、それぞれをくらべて伝えることが大切です。どんな観点からくらべるのかを決め、それぞれの同じところやちがうところがはっきりと伝わるようにまとめましょう。

振り返る

「学び続ける心」を育てる

- 最後に設けた**■生かそう**では、**★言葉の力を他教科等の学習や、日常生活に生かす**観点を示し、単元の学習で身につけた**★言葉の力**の活用を促します。

★言葉の力の系統性

六年間を通じて確かな★言葉の力を身につけられるように、**学習の系統性を重視**。全ての領域において、**各単元で身につけたい力と言語活動を明確に構成**しています。

主な領域の学習の系統（三年の例）

話すこと・聞くこと

書くこと

読むこと（文学）

読むこと（説明文）

対話

対話をするときの言葉や態度について考え、対話的な学びの基礎・基本の力を身につける。

何をしているのかな（上P10）
話をつなぐ言葉を考える

情報の扱い方

コンパクトな「書くこと」の活動を通じて、「情報の扱い方」の基礎・基本の力を身につける。

くらべてみよう（上P12）
表を用いて複数の事柄を比べる

音読

物語から読み取ったり考えたりしたことを、音読で表す力を身につける。

すいせんのラップ（上P16）
★様子を思い浮かべて音読をする

読解の基礎

文章の内容や構成を正確に理解する力を身につける。

自然のかくし絵（上P38）
★だん落の内ようをとらえる

聞く

必要なことを聞き取り、考えたり質問したりして、主体的に聞く力を身につける。

メモを取りながら話を聞こう（上P50）
★だいたいなことを落とさず聞く

説明・報告

調べたり考えたりしたことを、形式や構成、資料の使い方を工夫して書く力を身につける。

調べて書こう、わたしのレポート（上P56）
★調べて分かったことをつたえる

読み取る

物語の構成や内容を読み取る力を身につける。

はりねずみと金貨（上P64）
★あらすじをまとめる

読み比べ・表現の工夫

書き手の意図や目的に応じた表現の工夫を読み取る力を身につける。

「ほげんだより」を
読みくらべよう（上P90）
★書き手のくふうを読み取る

話し合う

目的を意識して計画的に話し合う力を身につける。

グループの合い言葉をきめよう（上P16）
★司会の進行にそって話し合う

創作（物語）

物語の創作を通じて、豊かに想像を広げて書く力を身につける。

想どうを広げて物語を書こう（上P148）
★設定を考えて物語を書く

読み深める

読み取ったことをもとに、想像を広げて解釈するために必要な力を身につける。

サーカスのライオン（上P126）
★中心人物を見つける

情報活用

目的や課題に応じて、情報を関係付けて活用する力を身につける。

パラリンピックが目指すもの（下P8）
★要約してまとめる

話す（感性）

感じたことが伝わるように、構成や音声表現の工夫を考えて話す力を身につける。

話したいな、わたしのすきな時間（下P26）
★話の中心がたつたわるように話す

手紙

手紙を書くことを通じて、目的や相手に応じて書く力を身につける。

案内の手紙を書こう（下P30）
★だいたいなことを手紙でつたえる

感想や考えを持つ

物語を読んで理解したり想像したりしたことをもとに、感想や考えを持つ力を身につける。

モチモチの木（下P40）
★人物のせいかくを想ぞうする

考えを広げ、深める

文章との対話を通して、ものの見方や考えを広げ、深める。

人をつつむ形
——世界の家めぐり（下P88）
★もの見方や考え方をとらえる

話す（情報活用）

調べたことや考えたことが伝わるように、構成や音声表現、資料活用の工夫を考えて話す力を身につける。

外国のことをしようかいしよう（下P102）
★話の組み立てや話し方をくふうする

意見

自分の意見や考えを、説得力を持って書く力を身につける。

自分の考えをつたえよう（下P60）
★自分の考えとその理由を書く

読み広げ・読み比べ

物語を読み広げたり、二つの物語を読み比べたりすることで、★言葉の力を広げ、深める。

ゆうすげ村の小さな旅館
——ウサギのダイコン（下P110）
★物や道具に気をつけて読む

創作（詩・短歌・俳句）

詩・短歌・俳句の創作を通じて、言葉を吟味して書く力を身につける。

心が動いたことを詩で表そう（下P78）
★心の動きを詩で表す

文集

一年間で書いた文章を読み返し、推敲する力や文章のよさを伝え合う力を身につける。

「わたしのベストブック」を
作ろう（下P128）
★文章のよいところをつたえ合う

4月の学びを大切に

4月には、一年間を通じて活用したい基礎・基本的な事項について学習する単元を配列。対話や情報の扱い方、図書館活用など、国語以外の教科にも生きる学習を行います。

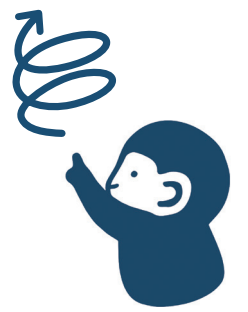
- 三年の例
- 何をしているのかな（上P10）
「話すこと・聞くこと」対話系統
 - くらべてみよう（上P12）
「書くこと」情報の扱い方系統
 - 一年間の学習に生かそう（上P14）
年間を通じた活用を促すコラム
 - すいせんのラップ（上P16）
「読むこと（文学）」音読系統
 - 国語のノートの作り方（上P28）
ノートの作り方コラム
 - 図書館へ行こう（上P30）
図書館活用



★言葉の力が積み上がる

★言葉の力は一年間、そして次の学年へとつながり、積み重なっていきます。
このような螺旋的・反復的な学習を通じて、児童の言葉による見方・考え方を豊かにします。

説明文(中学年)の例



低学年での学習から

三年

★だん落の内ようをとらえる

文章の中にいくつかある、小さな内ようのまとまりを、だん落といいます。だじだと思う言葉や文に気をつけて読み、一つ一つのだん落に何が書かれているかをとらえることで、文章全体の内ようをとらえやすくなります。
自然のかくし絵(三上P38)

読解の基礎

四年

★文章のまとまりをとらえる

文章を読むときは、全体がいくつかのまとまりからできているかを考えることが大切です。まとまりは、一つ、またはいくつかのだん落が集まってできています。それぞれのだん落の内容をとらえ、だん落どうしがどのように結び付いているのかを考えることで、まとまりの内容をとらえることができます。
ヤドカリとイソギンチャク(四上P36)

★表し方のちがいを読み取る

表し方のちがいを読み取る際には、次のような点に注意しましょう。
・どのようなことが取り上げられているか。
・写真や図などが、どのように使われているか。
・書かれていることがらが、どのような順でならべられていて、どんなことが強調されているか。
広告を読みくらべよう(四上P84)

読み比べ・表現の工夫

★調べたことを関係付ける

調べたことは、その目的に合わせてまとめる必要があります。調べたことの中から必要なものをえらび、それらをくらべたり、順序立てたりして、関係付けてまとめましょう。文章を読むときにも、書かれていることどうしの関係に注目し、自分でまとめるときに生かしましょう。
くらしの中の和と洋(四下P8)

情報活用

★要約してまとめる

文章の内ようをみじかくまとめることを要約といえます。要約するためには、文章の中の大切な言葉や文を見つけてまとめることが大切です。そのうえで、分かりやすく書きかえたり、言葉をおぎなったりして、まとめていきましょう。
パラリンピックが目指すもの(三下P8)

考えを広げ、深める

★ものの見方や考え方をとらえる

説明文を読むときは、考えと、理由や事例との関係に気をつけることが大切です。理由や事例との関係に気をつけて、筆者のものの見方や考え方をとらえるようにしましょう。
人をつつむ形——世界の家めぐり(三下P88)

★筆者の考えから自分の考えを広げる

筆者が何かの考えをのべているときは、そう考える理由や事例、事実に注目することが大切です。そのうえで、自分が知っていることや体験したことと結び付けたり、なっとくできる点やぎもんに思う点を挙げて、筆者の考えに対する自分の考えを広げていきましょう。
数え方を生みだそう(四下P84)

高学年での学習へ



★言葉の力がつなると、
国語がもっと楽しくなるよ!



解決！国語についての願いと悩み

児童を毎日、いちばん近くで見ている先生。そんな先生だからこそ抱く願いや悩みを、「新しい国語」が解決します。

日本の伝統的な言語文化に触れて、日本語の美しさを感じてほしいな。(→P27)

新しい時代を生きていく児童が、向き合うべき題材を知りたい。(→P26)

文字の習熟度がさまざまな一年生。どの児童にも安心して学習に取り組ませてあげたい。(→P19)

他教科と関連付けて授業を展開したい！(→P19)

新しい時代を生きる児童だからこそ出会わせたい

「教材・題材」



小学生のときに教科書で出会った作品は、いつまでも心に残るよね。(→P27)

小学校の学習をスムーズにスタート

「入門期」

国語の学習を、のびのびとスタートできるといいな。(→P16)

スタートカリキュラムにどうやって対応していけばいいのかな。(→P18)

教室にはいろいろな児童がいるから、どの児童も学びやすい教科書がいいよね。(→P28)

全ての児童のために

「特別支援教育への配慮とユニバーサルデザイン」



特別支援教育の知見は、全ての児童のために生かせよう。(→P28)

特殊音節や助詞「は」「へ」「を」の読み書きは、つまずきやすいよね。(→P28)

学習指導要領改訂のポイント

「知識・技能」

使いながら語彙を広げていければ、しっかりと身につけよう。(→P20)

児童の語彙をもっと増やす方法はないかな？(→P20)

「情報の扱い方」、これまでとどう違う？(→P22)

読書活動をもっと充実させたいな。(→P23)

新大学入試でも重視される実用的な文章に、小学生のうちから触れておければ……。 (→P25)

多くの児童がつまずきやすいポイントは、繰り返し練習できるといいな。(→P24)

デジタルツールを取り入れたい！(→P30)

学びをより広く、より深く

「デジタルコンテンツ・指導書」



毎日忙しいけど、授業の準備は妥協したくない！(→P31)

電子黒板やプロジェクターを効果的に活用できるコンテンツがあるといいな。(→P31)

全国学力・学習状況調査は何が問われる？

「学力の向上」

情報の比較や関連付けについては、どのように力を育めばいい？(→P25)



絵/といせな

入門期

幼児期の育ちを生かして伸ばす

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)」を踏まえた入門期の教材。生活科を中心としたスタートカリキュラムに無理なく対応するとともに、児童の意欲や発達に丁寧に寄り添うさまざまな工夫を施しています。

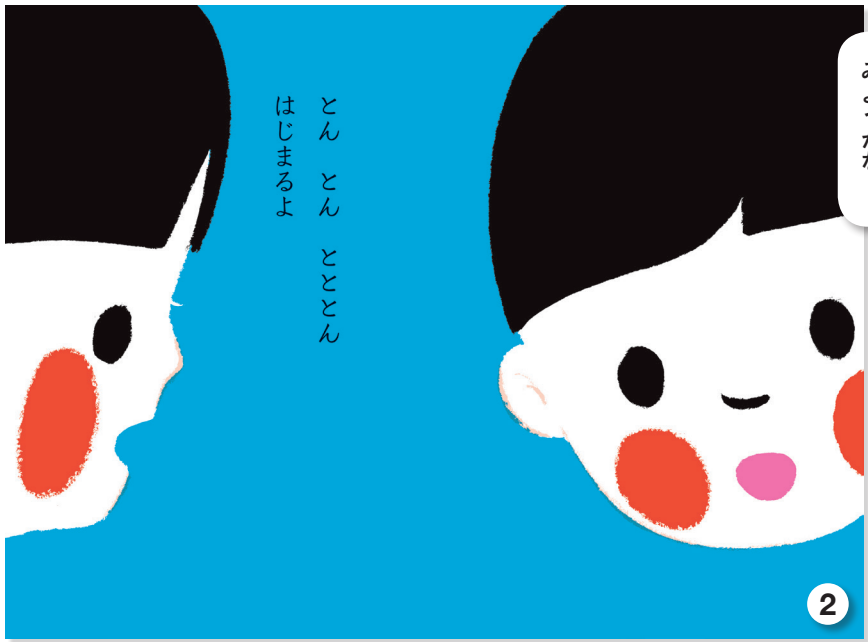


1 心と体で言葉に親しみ、楽しく始まる一年第一教材



隣の子の肩をトントンしてみようかな。

とん とん ととん はじまるよ



ぼくたちも、みんなで手をつなぎたい。

さあ はじめよう たん たん たん



リズムカルな言葉で楽しい国語の始まり

●初めて出会う教科書の言葉は、リズムよく呼びかけ合うような言葉。児童は体を自然と動かし、多様な表現を楽しむでしょう。心と体を使って言葉や音を楽しんできた幼児期の経験を、言葉の学びとして受け止め、つなぐ教材です。

表現を通して いっしょに学ぶ関係作り

●一人一人で考えた動作を真似したり真似されたり。みんなで声を合わせたり、グループで表現を考えて試したり。他者と関わり、受け入れ合いながら活動する楽しさは、対話的な教室作りにつながります。

児童の心情に寄り添った安心感のあるイラスト

●人気イラストレーターユニット「100%ORANGE」による元気で可愛い子供たち。初めはしばらくで不安げな表情ですが、ページをめくるごとに仲間の輪が広がり、明るい笑顔になっていきます。入学したばかりの児童が抱える不安と新しい出会いへの期待に寄り添ったストーリーです。

2 幼児期から小学校へ、スムーズに接続する四月教材

一年生4月の1日の学校生活(例)

朝の会

読み聞かせ

音遊び

仲間作り

- ・友達どうして自己紹介。
- ・名前を呼び合ってみる。

校内探検

- ・学校で働く人を探して、どんな仕事をしているのか話を聞いてみる。

生活の中の言葉を考えよう

- ・学校で人と関わるときの言葉を考える。

給食

帰りの会



よろしくね(一上P10) 自己紹介。言葉による伝え合いを通して仲間作りをする。



こえをとどけよう(一上P14) 作戦会議をしたり友達を呼んだりして、声の大きさの使い分けを意識する。



ひとつつながることば(一上P12) 挨拶など、人と関わる中で大切な言葉を考える。

- 四月教材群は全て見開き完結。児童が安心して取り組めるよう、「10の姿」を踏まえたシンプルな内容です。幼児期に育まれた言葉に関する資質・能力を見取りながら、小学校での言葉の学習の土台作りにつなぐことができます。

- 生活科を中心とした新一年生の学校生活の中に、無理なく位置付けられる題材や活動ばかり。スタートカリキュラムにも、柔軟に対応することができます。

- いきいきとした元気なイラストとデザインで、学びに向かう児童のわくわく感をさらに高め、国語の学習へと楽しく導きます。



3 五月以降も、無理なく学びやすく

発達段階に配慮して文字も言葉も習得しやすく

- 読み書きの基本となる平仮名は、どの児童も楽しみながら、無理なく確実に身につけられるよう、特別支援教育の知見を生かして教材化しました。(↓本紙P28参照)

- 文字の習得が不十分でも、負担なく言葉の学習に取り組めるよう、スマールステップで教材化するとともに、音声言語から文字言語へ、「読む」から「書く」へ、児童が学びやすい配列を工夫しました。

他教科関連を図りやすく

- 生活科や図画工作科などに関連させやすい題材や活動を積極的に取り上げています。年間を通じて、児童が学びやすいカリキュラムを工夫することができます。

文字言語

問いと答えで構成された文章を読む



さとうとしお(一上P40)

音声言語

問いと答えの応答によって発表する



みんなにはなそう(一上P36)

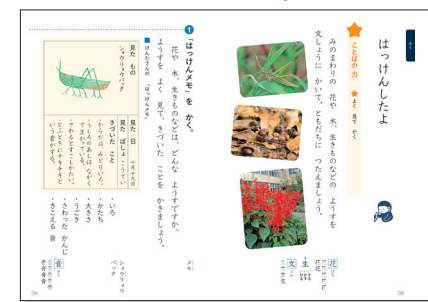
図画工作科：落ち葉アート

生活科：秋探検



なにに見えるかな(一上P30)

生活科：自然の観察



はっけんしたよ(一上P38)

学力の向上 各種学力調査の分析結果を生かして

【全国学力・学習状況調査】、東京書籍が実施する「標準学力調査」などの出題傾向や結果を詳細に分析。その分析結果を教材作りに反映し、これからの児童に求められる学力に対応しています。

1 つまずきのポイントを把握した練習教材

国語の学習の基盤となる知識や技能のうち、多くの児童にとって習得に課題のある「つまずきのポイント」を抽出。適所に克服・定着のための練習教材を設けました。

主語と述語

言葉の練習

- 主語と述語の組み合わせとして、正しいものをえらびましょう。
- つぎの文の主語に、横じつぷりに線を引きましょう。

1 タヤけが とても 美しい。
アタやけが 美しい。
イトもー 美しい。

2 父が 庭に 木を 植える。
ア父が 植える。
イ庭に 植える。
ウ木を 植える。

3 きょう、ぼくは 公園で 遊んだ。
アきのう 遊んだ。
イぼくは 遊んだ。
ウ公園で 遊んだ。

修飾語

言葉の練習

- よりくわしく説明する文を作るために、次の()の中から、に入る言葉を選びましょう。
- 赤ちやんが () ねわっている。
おじいさんが () 声が聞こえる。
おはきを () 脱ぎ捨てた。
今日 () 服を着て出かける。
この話を聞いて () ふるえる。
本の感想を () 話した。
- 親切に ぶるぶる ぐずずり () 話した。
新しい じっくり にきかな

1 線の首は、どの言葉でわしく説明していいですか。その言葉を書きましょう。

2 子どものおはきを、元気に 歩かせる。わたしの 姉は、ダンスが 得意だ。つかまえた 虫を 飼って 調べる。わたしの 友だちが、手紙を 書いた。

3 () の言葉でくわしく説明しているのは、この首で、それ、全を書きましよう。

4 わたしの 白いTシャツを せんたくする。

5 されいな、赤い「花が」さいた。

6 教室の 白いTシャツを せんたくする。

7 わたしの 兄は、いつも 考えを はきりましよう。

言葉の練習 (三上P153)

言葉の練習 (五年P163)



このマークがついている教材は、デジタルコンテンツに対応しており、繰り返し練習することができます。(→本紙 P30 参照)

「標準学力調査」で正答率の低かった内容とそれに対応する練習教材

内容	主な出題例	正答率	対応する教材
主語と述語	四年 H30-1 学期3-(1)	59.7%	言葉の練習 (三上 P153) 言葉の練習 (四上 P123)
国語辞典の使い方	四年 H30-1 学期3-(3)②	58.5%	言葉の練習 (四上 P123)
ローマ字	四年 H30-1 学期3-(2)	50.0%	ローマ字の練習 (四下 P127)
修飾語	五年 H29-3 学期3-(2)	17.4%	言葉の練習 (五年 P163)
敬語	五年 H29-3 学期3-(3)①	42.4%	言葉の練習 (六年 P107)

2 「生きる力」を育む実用的な教材

「全国学力・学習状況調査」では、OECDのキー・コンピテンシーなどを踏まえた「生きる力」を育むという観点が重視されています。その出題傾向や結果の分析から、未来を担う児童に求められる新しい学力を見極め、重点的に教材化しています。

全領域に、複数の情報に関連付ける教材

「全国学力・学習状況調査」の報告書では、ほぼ毎年、複数の情報や内容の関連付けが課題であると指摘されています。それを受けて、複数の情報を関連付けて理解や思考を深める教材を、全ての領域において系統的に設定しました。

環境問題について報告しよう (五年P50)

資料を見て考えたことを話そう (五年P226)



新聞記事を読み比べよう (五年P84)

「全国学力・学習状況調査」国語Bにおける、目的や意図に応じた表現に関する設問数

H27	H28	H29	H30
6 (9)	6 (10)	5 (9)	4 (8)

(カッコ内は総設問数)

広告を読みくらべよう (四上P88)

広告を読みくらべよう (四上P90)

実用的な教材から、目的や意図に応じた表現を学ぶ。説明文の系統である「読み比べ・表現の工夫」では、広告や新聞などの日常生活で接する実用的なテキストを複数読み比べ、書き手の目的や意図に応じた表現について考えます。

教材・題材

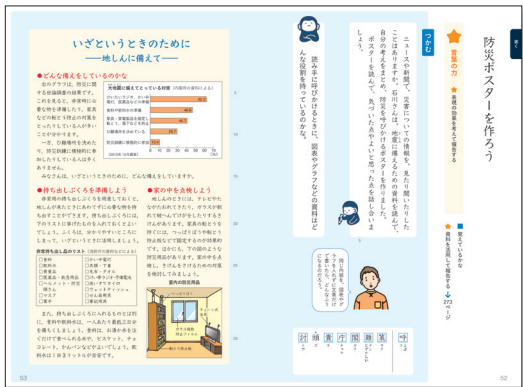
新しい時代を生きる児童のために

変化の激しい現代社会をたくましく生きるには、他者と共生するとともに、直面する課題を主体的に解決する力が必要です。東京書籍が選り抜いた多様な教材は、未来を拓くための創造的な知性や感性を育みます。

1 現代社会の課題に向き合う

- 全学年・全領域を通じて、児童が将来にわたって向き合うべき諸課題を扱う教材・題材を採用しました。

防災・安全



防災ポスターを作ろう (六年P52)

平和と共生



パラリンピックが目指すもの (三下P8)

情報化社会



インターネットの投稿を読み比べよう (六年P78)

科学技術の発展



「弱いロボット」だからできること (五年P214)



現代的な教育課題への対応については、別紙「検討の観点と内容の特色」も併せてご覧ください。

2 感性に訴える文学作品を味わう

- 心に響く文学作品を厳選。さまざまな人の生き方や他者への思いやり、生命の尊厳などに触れ、感性に強く訴える作品を味わうことで、児童の心を豊かに育みます。



りっちゃんは、病気になったお母さんのために、おいしいサラダを作りました。

サラダでげんき (一下P5)



ヤモの住むバグマンは、自然の恵みいっぱいの「世界一美しいぼくの村」。そのバグマンにも、戦争の影が忍び寄ってきます。世界一美しいぼくの村 (四下P110)



村一番のもぐり漁師だった父が生きた海。母の悲しみを背負いながら、太一もまたその海に生きようとしています。海のいのち (六年P112)



きせつの足音 (三上P110)



きせつの足音 (三下P72)

四季折々の自然や風物を表現した詩歌に触れる「季節の足音」。二年生以上の各巻に設けました。

3 日本語の豊かさに触れる

- 伝統的な言語文化に親しむ教材を随所に提示。日本語の美しさや表現の豊かさに触れることで、私たちが受け継いできた言語文化を大切に、発展を願う態度を養います。



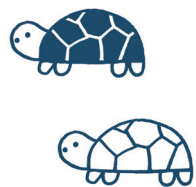
俳句に親しむ (三下P74)



各学年に設けた「伝えたい言葉」では、私たちが受け継いできた言語文化を取り上げています。

特別支援教育への配慮とユニバーサルデザイン

学び方や得手不得手は、児童によってさまざまです。全ての児童にとって学びやすい教科書を
目指した「新しい国語」。不要なつまずきを回避して、一人一人の学びを保証します。

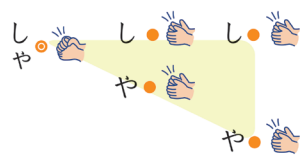


1 特別支援教育の知見を生かし、読み書きのつまずきやすいポイントをフォロー

特殊音節と文字は視覚化と動作化でつなぐ

● 促音(っ)や拗音(しゃ)など、文字と音が1対1で対応しない特殊音節は、平仮名の習得で特につまずきやすいといわれます。そこで、**読み書きにつまずきを抱えやすい児童を支援する指導モデル(「多層指導モデルMIM」)**の一環として開発された指導法を基に教材化しました。

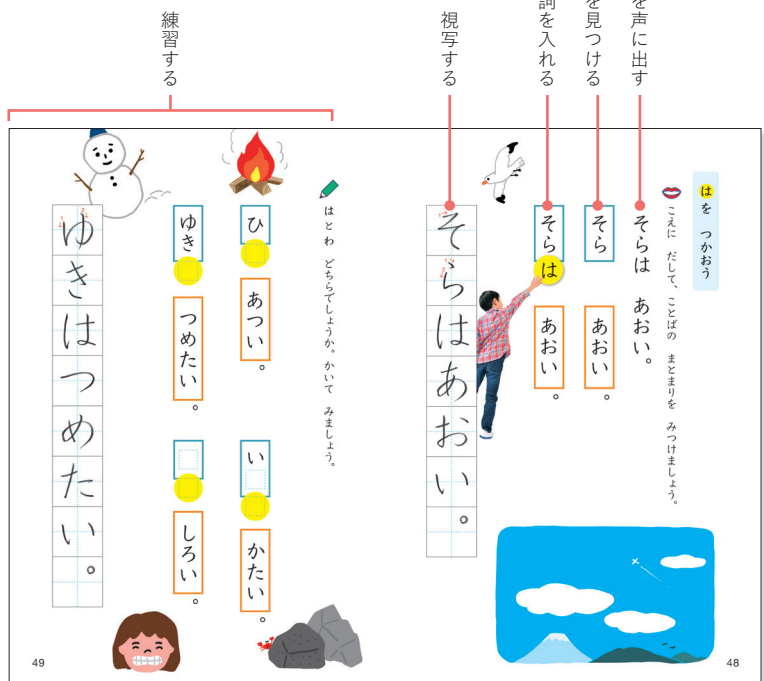
● 記号(●など)による視覚化と手を叩いたり握ったりする動作化により、**多感覚に働きかけること**で、音節の仕組みを理解して表記につなげやすくしています。特別な支援を必要としない児童も含め、多くの児童にとって分かりやすことが実証された、**科学的根拠に基づいた指導法**です。



ちいさいやゆよ (一上P78)

助詞「は」「へ」「を」は、意味と使い方を視覚化

● 特殊音節と並んでつまずきやすいといわれる助詞「は」「へ」「を」は、文の読み書きの基本。その**意味と使い方**を理解することに焦点化した教材を設けました。助詞を入れる過程を**スモールステップ**で示すとともに、**視覚的に表現**することでとらえやすくしています。



はをつかおう (一上P48)

書く学習をサポートする仮名表記一覧表

● **一年上・下巻の付録に、平仮名と片仮名の全ての表記を一覧できる表を収録**しました。文字の習得度合いに応じて付録を活用することで、どの児童も安心して文を書く学習に取り組みむことができます。

2 全ての児童にとって読みやすい教科書へ

行をとらえやすい脚注野線

● 全ての物語・説明文教材の脚注野線には、五行ごとの行数字だけでなく、一行ごとに点(・)を示しています。

文字指導に適した書体の開発

● 読みやすいことはもちろん、書く際の手本ともなるよう、**手書き文字に近い書体を独自開発**。特に、ローマ字などに用いるアルファベットには、特別支援教育の専門家のお言葉のもと、**英語教科書用に新たに開発したユニバーサルデザイン書体**を使用しています。

誰もが見分けやすい配色や工夫

● 色覚問題研究グループはすてるの協力を得て、全巻全ページにわたり、色に関わる表現を一つ一つ検討しました。**全ての児童に見分けやすい配色**を工夫するとともに、必要に応じて**色以外の情報**を加え、判別しやすくしています。



サボテンの花 (六年P16)

し、ぼくはここに
たかいながら生
、ぼくは思っ
つな分らない
くの向こうへ消
炎熱の中。うず
甲。
もう死ぬ直前
はこしにつるし
てサボテンに切



デジタル教科書・教材、教師用指導書

学習者用デジタル教科書 **学習者用**

法改正により、**文部科学省が認める学習者用デジタル教科書**（紙の教科書と内容同一）を、紙の教科書と併用することが可能になりました。東京書籍は、二年度小学校教科書の**発行全書目で学習者用デジタル教科書を発行します。**

複数の教科を一括管理

● 東京書籍をはじめ複数の発行者が採用するビューア「Lentrance Reader」を使用。**さまざまな教科・教材を一つのビューアで管理できます。**
※ Lentrance は、日本国、米国、およびその他の国における、株式会社 Lentrance の登録商標または商標です。

学習を支える便利な機能

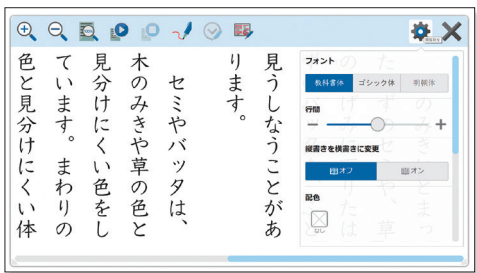
● **ペンツールでメモを残したり、ウェブ上の参考資料へのリンクを貼り付けたりすることが出来ます。**個人の学習記録を残すことで、児童一人一人の教科書が作れます。

特別支援等への対応

● 文字色や大きさ、行間などを調整し、**児童が最も読みやすいようにカスタマイズすることが出来ます。****本文の読み上げ機能や教科書紙面の総ルビ分かち書きデータは、視覚障害や発達障害の児童だけでなく、急増する外国人児童や海外からの帰国児童など、日本語の読み書きが苦手の児童への対応としても有用です。**



Lentrance Reader：本棚



Lentrance Reader：リフロー

指導者用デジタル教科書（教材） **指導者用**

電子黒板やプロジェクトターによる**教科書紙面の拡大表示、動画・音声の再生機能**などを備えたデジタル教材。**豊富な資料動画やワークシート**とともに、**書き込み機能やオリジナル教材を作成できる機能を搭載し**、児童の理解度や特性に合わせて活用できます。

授業に役立つ豊富な機能やコンテンツ

- ・ 朗読音声
- ・ ペンやスタンプを使った紙面への書き込み機能
- ・ 資料動画や著者インタビュー動画
- ・ ワークシートや思考ツールプリントやオリジナル教材を手軽に作成できる



自然のかくし絵（三上）

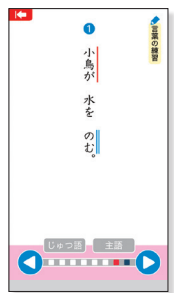
Dマークコンテンツ **学習者用 無料**

● 教科書上に**D**がついている単元・教材では、**学習内容に関連する無料のコンテンツをウェブサイト上に用意しています**（通信費は自己負担）。繰り返し取り組むことのできる**練習問題**や、「聞く」系統の教材や古典教材の**音声資料**、漢字の読みや画数、筆順などを確かめることができ**る漢字・筆順アニメーション**など、さまざまなコンテンツが学習をしっかりと支えます。

● デジタルコンテンツを掲載しているウェブサイトは簡単にアクセスできるように、**教科書の各巻の目次にURLと二次コードを掲載**しています（一・二年上巻は除く）。



コンテンツリスト(三上)



言葉の練習（三上）



漢字・筆順アニメーション（全学年）



三上のDマークコンテンツをこちらからお試いただけます。
<https://tsho.jp/02p/k3a/>

教師用指導書 **指導者用**

指導書 研究編 一〜四年上下巻各一冊／五・六年各一冊
教材研究のための資料を充実させ、板書例、発問例など、日々の指導に役立つ具体的な要素を多く取り入れました。
・ 付属のワークシート編には、研究編との関連を図り、授業に役立つワークシートを用意。
・ 付属のDVD-ROMには、各種指導用データに加え、教科書紙面の総ルビ分かち書きデータとDマークコンテンツのデータも収録。

指導書 指導編（朱書） 一〜四年上下巻各一冊／五・六年各一冊
教科書と同じ体裁で、指導に必要な事項や、指導のポイントなどの情報を朱書としています。

読書指導のつびき

図書館利用指導、読書活動のための実践資料に加え、児童の発達段階に応じた図書を多数紹介しています。

指導用音声CD 一〜六年各一セット

文学教材・説明文教材の範読を収録し、指導用・鑑賞用として活用できます。古典教材の範読や、「話すこと・聞くこと」の教材のための音声資料も収録。